

公園の風景

= ヨシ焼きのあとに =

3月3日、春を告げるヨシ原のヨシ焼きが行われ、約100人が豪快な炎に見入りました。ヨシ原の保全と野鳥やトンボなど、生物の生育環境を整えるため、およそ6ヘクタールあるヨシ原のうち、今年は東側2.5ヘクタールを焼きましたが、ヨシ焼き後、おなじみのツグミ、ショウビタキ、オオジュリンなどが遊ぶ中、一年ぶりのツメナガセキレイも姿を見せ訪園者の目を楽しませてくれました。ツメナガセキレイは日本では旅鳥で、繁殖のため北上中に立ち寄ったようです。



昨年ヨシ焼きのあと姿を見せています。目の上の眉のあたりと胸から腹にかけて明るい黄色をした、なかなかの美鳥です。残念ながらこの時期しか姿を見ることができません。

= ひなたぼっこ =



3月上旬の日曜日、日差しが暖かく公園全体を包んでいました。空にはトビがゆうゆうと弧を描くのどかな昼前、公園西側の芝生のベンチで寛がれる男性4人組をお見かけしました。4人は東岐波から来られたとか。公園の風景が好きで毎月2~3回、お弁当持参で来ているとのこと。「今日は暖かいねえ。公園を歩いたり、（こんなふうに）座り込んで話をしたりするのが楽しいよ」と話される4人は夕ご飯も一緒にすることもあるほどの仲良さそうです。

ホント！春の公園はひなたぼっこにもってこいの場所です。皆さんもお友達を誘って公園の陽だまりでランチとシャレしてみませんか。ただしお弁当ガウは持って帰ってくださいね。

= ミサゴの人工巣台 =

公園の東側に設置されているミサゴのための人工巣台。春を迎えていよいよミサゴの繁殖期が近づいた。しかしこの期におよんで、レンジャーの間ではミサゴがこの春「営巣する」「しない」で意見が二分しているもようだ。営巣する派は「最近巣台に近づいたノスリを追い払うミサゴの姿を見た、縄張り意識のある証拠」と話し、営巣しない派は「公園の中は人の気配が強いから無理なのでは」と語る。さて、どちらが正解か。人工巣台の存在は今後また違った意味で興味津々である。